

授業科目                      公衆衛生学

【担当教員名】  遠藤 和男		対象学年	1	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>管理栄養士の国家試験科目としての「社会・環境と健康」は、従来の「健康管理概論」と「公衆衛生学Ⅰ」とから成っており、1年生前期の「健康管理概論」に続いて学習する。なお、疫学の考え方は2年後期の「疫学」で、卒業研究に必要な指標及び方法論については3年後期「統計情報処理」で学習する。「公衆栄養学」「公衆栄養学」は管理栄養士用の各論と捉えてもよい。</p> <p>&lt;一般目標：G10&gt;</p> <p>公衆栄養学及び同実習の基礎となる概念と考え方を修得するため、人生の各段階における宿主要因、環境要因及び疾病の予防対策について理解する。</p>					
【行動目標：SBO】					
<p>1. 公衆衛生の定義を説明できる。</p> <p>2. 疾病予防の3段階について説明できる。</p> <p>3. ライフステージ毎に特有な健康問題を指摘できる。</p> <p>4. 主要な疾病について宿主要因と環境要因とを区別できる。</p> <p>5. 種々の疾病それぞれの予防方法について実践するかまたは援助できる。</p>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	公衆衛生の定義と歴史：公衆衛生の定義と諸外国及び日本の歴史について学ぶ。			1	講義、担当：遠藤 和男
2	人口問題と衛生統計：日本の人口構成の変化及び人口動態統計の諸率について学ぶ。			1	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
3	地域保健で用いる指標：罹患率や有病率について学ぶ。			1	講義、担当：遠藤 和男
4	衛生行政と国際保健：保健所と市町村の役割分担、世界保健機関と国際問題を学ぶ。			1	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
5	環境保健Ⅰ：生物学的な環境要因について学ぶ。			2-5	講義、担当：遠藤 和男
6	環境保健Ⅱ：物理、化学的な環境要因について学ぶ。			2-5	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
7	環境保健Ⅲ：水質汚濁、大気汚染などの公害問題について学ぶ。			2-5	講義、担当：遠藤 和男
8	公害事例についてのレポートを提出する。			2-5	レポート提出
9	成人保健Ⅰ：AIDSなどの感染症について学ぶ。			2-5	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
10	成人保健Ⅱ：がんの成因と予防法について学ぶ。			2-5	講義、担当：遠藤 和男
11	成人保健Ⅲ：循環器系疾患の成因と予防法について学ぶ。			2-5	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
12	老人保健と介護保険：高齢者医療確保と健康増進法について学ぶ。			2-5	講義、担当：遠藤 和男
13	母子保健及び学校保健：少子高齢化の問題点について学ぶ。			2-5	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
14	労働衛生と産業保健：古くからのものと新しい問題点について学ぶ。			2-5	講義、担当：遠藤 和男
15	まとめ			2-5	講義と小テスト、担当：遠藤 和男
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		これからの公衆衛生学―社会・環境と健康	田中平三編、遠藤和男ほか	南江堂	3,200円＋税
参考書		スタンダード公衆衛生学	眞野喜洋、遠藤和男	文光堂	2002年
その他の資料		毎回レジュメを配布するので、サヴノート代わりに書き込むこと。 試験前に学内LANに過去10年間の問題を掲載する。			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
<p>・隔回4問の小テストは自己採点してもらうが、出席の代わりである。</p> <p>・出席点、公害問題のレポート、国家試験形式による試験成績を総合的に評価する。</p>			<p>2年後期の「疫学」や3年後期の「統計情報処理」と重複する項目もある。ただし、重要な項目については、あえて重複して教えることにしている。</p>		